

付録-6 詳細調査報告書様式

—目次—

	ページ
詳細調査写真・・・・・・・・・・・・・・・・	1
漏水調査票・・・・・・・・・・・・・・・・	2
鋼塗膜調査票・・・・・・・・・・・・・・・・	3
RC床版調査・・・・・・・・・・・・・・・・	5
F11T遅れ破壊調査・・・・・・・・・・・・	6
BOX構造内部調査・・・・・・・・・・・・	8
ケーブル詳細調査・・・・・・・・・・・・	9
鋼床版等疲労調査・・・・・・・・・・・・	13
コンクリート健全性調査・・・・・・・・	15
鋼製橋脚隅角部疲労調査・・・・・・・・	19
塩害調査・・・・・・・・・・・・・・・・	21
アルカリ骨材反応調査・・・・・・・・・・	23

詳細調査写真					径間番号				
施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

詳細調査写真	写真番号		径間番号		撮影年月日		写真番号		径間番号		撮影年月日			
					部材名						部材名			
					部材番号							部材番号		
					損傷の種類							損傷の種類		
					損傷度評価							損傷度評価		
					メ						モ	メ		モ
	写真番号		径間番号		撮影年月日		写真番号		径間番号		撮影年月日			
					部材名						部材名			
					部材番号							部材番号		
					損傷の種類							損傷の種類		
					損傷度評価							損傷度評価		
					メ						モ	メ		モ

漏水調査票

施設管理No.		路線名		行政区		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		建設年	

調査 径間	総合評価（※1）				損傷状況等（※2）	調査結果 （※3）	備考
	舗装	排水管	排水桝	伸縮装置			
総合評価							
評価							

[illegible]

塗膜状況写真

全景	径間		橋面	径間		橋梁下面	径間		橋名板	径間		塗歴板	径間	
写真番号		径間		写真番号		径間		写真番号		径間		写真番号		径間
写真番号		径間		写真番号	7	径間		写真番号		径間		写真番号		径間
備考 （記載例） ・部分的な錆が確認されるが、局所的なものであったため、評価3とした。 ・塗膜のはがれは確認されなかったため、評価3とした。 ・局所的に白亜化が確認されるが、非常に軽微であり、評価3とした。 ・塗膜われは確認されなかったため、評価3とした。 ・塗膜のふくれは確認されなかったため、評価3とした。														

RC床版調査

施設管理No.		路線名		行政区		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		建設年	

調査径間	～	補修工事	有 ・ 無
------	---	------	-------

損傷詳細図

換算方法
a：10点
b：8点
c：6点
d：4点
e：2点
(算出例)

評価	点数	パネル数	点数×パネル数
a	10	5	50
b	8	4	32
c	6	6	36
d	4	3	12
e	2	0	0
合計		18	130
平均点		130/18=7	
総合評価		b	

総合評価は、以下の基準による
a：8点を超え10点以下
b：6点を超え8点以下
c：4点を超え6点以下
d：2点を超え4点以下
e：0点を超え2点以下

平均値		総合評価	
-----	--	------	--

その他	
-----	--

- ※1 径間毎に、パネルごとの評価図を作成する。また、損傷区分ごとに代表パネルにてクラック図を作成する。
- ※2 総合評価（各パネルの評価の平均値）は、算出方法は詳細調査要領による。（小数点以下第2位を切り捨てとする）
- ※3 長支間で1枚での記入が困難な場合は、分割して記載する。
- ※4 RC床版を補強済（鋼板接着等）の場合は、補強範囲を図示すること。また、補強部の叩き点検により充填不良が確認された場合は、範囲を図示する。
- ※5 作業時には、作業区域を明確にして第三者に危険の及ぶことのないよう注意する。
- ※6 点検者は落下物に十分注意を払い、自身の安全を確保しなければならない。
- ※7 対象となる径間の全パネルの写真を撮影し、詳細調査写真に納めること。

F11T遅れ破壊調査（調査位置図）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査径間	～	
調査位置図		
その他		

F11T遅れ破壊調査（調査結果）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査径間	～											
接合部概略図			調査結果（※１）									
			検査		結果				備考			
					調査箇所①	調査箇所②	調査箇所③	調査箇所④				
			使用本数（全数）									
			損傷ボルト本数	脱落								
				破損								
				ゆるみ								
				その他								
				合計								
			第三者被害（有無）									
			検査		結果				備考			
					調査箇所⑤	調査箇所⑥	調査箇所⑦	調査箇所⑧				
			使用本数（全数）									
			損傷ボルト本数	脱落								
				破損								
				ゆるみ								
				その他								
				合計								
			第三者被害（有無）									
			検査		結果				備考			
					調査箇所⑨	調査箇所⑩	調査箇所⑪	調査箇所⑫				
			使用本数（全数）									
			損傷ボルト本数	脱落								
				破損								
				ゆるみ								
				その他								
				合計								
			第三者被害（有無）									
			判定（径間単位での第三者被害可能性）									
その他												

※1 打撃によって塗膜にキズが入ったときは、部分補修（塗装）を実施する。

BOX構造内部調査（調査位置図）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査径間	～	
調 査 位 置 図	※マンホール位置を明示すること。（シール貼り付け位置） ※亀裂に関しては、鋼床版等疲労調査（調査結果）の様式に取りまとめる	
その他		

損傷の凡例

腐食	
剥離	
鉄筋露出	
コンクリート補強材の損傷	
漏水	
遊離石灰	
ひびわれ	
その他	

ケーブル詳細調査 腐食調査（過流探傷法1／2）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査概要											最大腐食ケーブル調査結果		ケーブルNo	
											腐食評価グラフ			
調査結果														
開封または全磁束法要否判定										要				
ケーブルNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
腐食評価 θ_i														
ケーブルNo	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20				
腐食評価 θ_i														
最大腐食ケーブルNo					最大腐食位置					m				
※下端からの位置で示す。														
ケーブルNo位置図														

ケーブル詳細調査 腐食調査（過流探傷法2／2）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

電圧変化グラフ

ケーブル詳細調査 腐食調査（開封調査）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査概要			
調査結果			
ケーブルNo		調査位置	
腐食量(%)		腐食の状態	
腐食評価		腐食深さ（何層目）	
		断面欠損の有無	
腐食量判定シート	本数	基準腐食量	腐食量
腐食なし		0.0%	
白錆		0.3%	
赤錆点在		1.1%	
赤錆1/2面		2.9%	
赤錆全面,孔食有り		4.7%	
断線有り		100.0%	
合計		-	
調査写真			

ケーブル詳細調査 張力調査

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

[illegible]

鋼床版疲労調査（調査位置図）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査径間	～	部材名		部材番号	
調査位置図					
その他					

鋼床版疲労調査（調査結果）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査径間	～	
損傷図（※１）		

調査結果							探傷試験スケッチ図
検査		結果					備考
		番号①	番号②	番号③	番号④	番号⑤	
目視 検査	塗膜われ						
	局所錆						
渦流探傷試験（有・無）							
磁粉探傷試験（mm）							
判定							
評価							

※１ 疲労亀裂は、亀裂の大きさと先端を図示する。

※２ 塗膜を除去した場合は、部分補修（塗り替え）を実施する。

コンクリート健全性調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日		
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称		所在地	起	
委託名				業者名				点検者名			終	

調査位置図

その他	
-----	--

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

中性化深さ調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名				終	
						点検者名			

調査位置詳細図（※1）			調査結果			
	調査径間			調査径間		
	調査部位			調査部位		
	（mm） 測定結果 （※2） （mm） 中性化深さ	①		測定結果（mm） （※2） （mm） 中性化深さ	①	
		②			②	
		③			③	
		平均			平均	
	（mm） 測定結果 （mm） かぶり深さ	①		（mm） 測定結果 （mm） かぶり深さ	①	
		平均			平均	
	環境条件 （通常：1、塩害：2）			環境条件 （通常：1、塩害：2）		
	発錆限界深さ （※3）			発錆限界深さ （※3）		
	竣工年			竣工年		
供用年数			供用年数			
判定（中性化進行状況より、コンクリートの品質低下が懸念される場合は×、されない場合は○）						
その他						

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※2 中性化深さは3箇所測定し、それらの値は平均値からの偏差が±30%以内でなければならない。（平均値からの偏差(%)＝[(個々の値－平均値)／平均値]×100）

※3 発錆限界深さは、通常環境（かぶり深さ-10mm）、塩害環境（かぶり深さ-25mm）とする。

圧縮強度調査（コア法）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名			点検者名		終

調査結果	試料1	位置記号	供試体寸法		質量 (kg)	
		部材記号	供試体質量 (g)		見掛けの密度	
			供試体長 (mm)	1	最大荷重 f_c' (N)	
				2	高さ補正值	
				平均	高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)	
			供試体直径 (mm)	1	静弾性係数 (kN/mm ²)	
				2	設計基準強度 (N/mm ²)	
				平均	判定 (圧縮強度 > 設計基準強度なら○)	
		径間	供試体寸法		質量 (kg)	
	試料2	部位	供試体質量 (g)		見掛けの密度	
			供試体長 (mm)	1	最大荷重 f_c' (N)	
				2	高さ補正值	
				平均	高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)	
			供試体直径 (mm)	1	静弾性係数 (kN/mm ²)	
				2	設計基準強度 (N/mm ²)	
				平均	判定 (圧縮強度 > 設計基準強度なら○)	
		径間	供試体寸法		質量 (kg)	
	試料3	部位	供試体質量 (g)		見掛けの密度	
			供試体長 (mm)	1	最大荷重 f_c' (N)	
				2	高さ補正值	
				平均	高さ補正後圧縮強度 (N/mm ²)	
			供試体直径 (mm)	1	静弾性係数 (kN/mm ²)	
				2	設計基準強度 (N/mm ²)	
				平均	判定 (圧縮強度 > 設計基準強度なら○)	

圧縮強度調査（反撥硬度法）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名			点検者名		終

調査結果	調査No	1			調査No			
	調査部位	主桁			調査部位			
	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値	測定回数	測定値
	1		16		1		16	
	2		17		2		17	
	3		18		3		18	
	4		19		4		19	
	5		20		5		20	
	6		21		6		21	
	7		22		7		22	
	8		23		8		23	
	9		24		9		24	
	10		25		10		25	
	11		26		11		26	
	12		27		12		27	
	13		28		13		28	
	14		29		14		29	
	15		30		15		30	
	平均値				平均値			
	標準偏差 σ_X				標準偏差 σ_X			
	打撃角度 α (°)				打撃角度 α (°)			
	角度補正值 ΔR				角度補正值 ΔR			
	補正反発硬度R				補正反発硬度R			
	補正前圧縮強度 F' (N/mm ²)				補正前圧縮強度 F' (N/mm ²)			
	材齢係数K				材齢係数K			
	補正後圧縮強度 F (N/mm ²)				補正後圧縮強度 F (N/mm ²)			
	設計基準強度 (N/mm ²)				設計基準強度 (N/mm ²)			
	判定				判定			

鋼製橋脚隅角部疲労調査（調査位置図）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査径間	～	橋脚番号	
調査位置図（※1）			
その他			

※1 隅角部の詳細図が無い場合は、溶接線の位置が分かるようにスケッチする。

鋼製橋脚隅角部疲労調査（調査結果）

施設管理No.		路線名		行政区		交通量		ID	
橋梁名		緊急交通路		工営所		大型混入率		点検年月日	
上部構造形式		下部構造形式		橋長		有効幅員		建設年	

調査径間	～	橋脚番号							
損傷図（※1）		調査結果							
		検査		結果					備考
				隅角①	隅角②	隅角③	隅角④	隅角⑤	
		検目 査視	塗膜われ・亀裂						
			局所錆						
		渦流探傷試験（有・無）							
		磁粉探傷試験（mm）							
		探傷試験スケッチ図							
判定※3（亀裂の有無）									
その他									

※1 疲労亀裂は、亀裂の大きさと先端を図示する。

※2 塗膜を除去した場合は、部分補修（塗り替え）を実施する。

※3 亀裂の有無を記載すること。

塩害調査票（調査位置概要図）

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名				点検者名		終	

調査位置図

その他

※ 調査箇所の概要がわかるような記録をする（橋梁全体のどの径間を調査したか、どの部材を調査したかわかるように記入する）

塩害調査票（調査結果）

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名				点検者名		終	

調査位置詳細図（※１）		調査結果						
		位置記号						
		部材記号						
		含 有 塩分量 測定結果 (kg/m3) (※２)	表面部（0-30mm）					
			中間部（30-60mm）					
			深部（60-90mm）					
			深部（90-120mm）					
		中性化深さ(mm)						
		かぶり深さ測定結果(mm)						
		鉄筋位置の塩化物 イオン濃度						
		竣工年						
供用年数								
判定（1.2kg/m3以上：要対策， 1.2kg/m3未満：対策不要）								
評価								

※１ 調査箇所の詳細がわかるような記録をする（基本となる部材からの距離などを記入）。

※２ JIS A 1154に準じて分析した結果を記入する。

アルカリ骨材反応調査（調査位置概略図）

管理番号		工営所		路線名				監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		交差対象物名称		所在地	起
委託名				業者名				点検者名		終	

位置記号		～		部材記号	
調査位置図（※1）					
その他					

※1 調査箇所の詳細がわかるような記録をする。（基本となる部材からの距離などを記入）

アルカリ骨材反応調査（調査結果）

管理番号		工営所		路線名		監督職員		点検日	
施設名称		延長		幅員		建設年		所在地	起
委託名				業者名			点検者名		終

位置記号		～						部材番号								
調査結果（※１）	試料 1	基長（mm）														
		標準養生		解放膨張量（mm）						解放膨張率（％）						
		時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W		
		残存膨張量（mm）														
		残存膨張率（％）														
		時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W						
		残存膨張量（mm）														
		残存膨張率（％）														
		全膨張量（mm）														
		全膨張率（％）														
	残存膨張性		無													
	試料 2	基長（mm）														
		標準養生		解放膨張量（mm）						解放膨張率（％）						
		時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W		
		残存膨張量（mm）														
		残存膨張率（％）														
		時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W						
		残存膨張量（mm）														
		残存膨張率（％）														
		全膨張量（mm）														
		全膨張率（％）														
	残存膨張性															
	試料 3	基長（mm）														
		標準養生		解放膨張量（mm）						解放膨張率（％）						
		時間	24h	48h	72h	96h	120h	144h	168h	1W	2W	3W	4W	5W		
		残存膨張量（mm）														
		残存膨張率（％）														
		時間	6W	7W	8W	9W	10W	11W	12W	13W						
		残存膨張量（mm）														
		残存膨張率（％）														
		全膨張量（mm）														
全膨張率（％）																
残存膨張性																
アルカリ骨材反応（※２）																
判定																
評価																

※1 促進養生試験（JC I-DD2）またはカナダ法に準じて分析した結果を記入する。カナダ法の場合は、2週目までの測定値を記入する。

※2 試料1～3の最悪値とする。